第１９回埼玉県ディスコン大会結果報告

開催日時：令和８年１０月２７日（水）１３：００～１６：３０
開催場所：県立武道館　主道場（上尾市日の出町）
参加チーム：１８チーム（１チーム３名編成、２名は不可）
参加人数：競技者５４名、スタッフ９名
　　合計６３名（男：２４名、女：３９名）
参加費：一人５００円（当日支部ごとに徴収）
配布資料：大会開催要項、参加者名簿、競技方法、タイムスケジュール、組合せ表、コートレイアウトなど。
会場設営：コートはテープ（会場指定、赤色を使用）を利用し６面（５m×１０m）を設置しました。なお、エンドラインの両サイドには三角コーンを置きました。
　また、全日本ディスコン交流協議会の公式ルールブックのコートサイズに従い、ポイントライン、選手待機ライン、無効ディスク保管ラインを設定しました。
　得点表（A３サイズ、署名欄付き）とコート別試合順序表（結果記入欄あり）は、エンドライン外側にベニヤ板２枚を椅子の上に置き掲出しました。
競技方法：予め本部が作成した組合せ、コート割りに従い、全チーム合計４試合を実施。
　１コートに３チームが入って、各チーム２試合と審判を行い（全チーム主審はインストラクター担当)、コートを移動して後半戦の２試合を行いました。
　１試合１２分で７点先取制。時間内で試合が終了した場合も練習は不可。試合結果は勝点制で、勝ちは３点、引分けは１点、負けは０点とし、４試合合計で勝点が同じ場合は得点の多い順、勝点・得点も同じ場合は失点の少ない順（全て同点の場合は、キャプテンのジャンケン）で順位を決定しました。
大会趣旨：①日頃の練習の成果を発揮する場として、またディスコン愛好者同士の交流の場として、１年に１回ディスコン仲間が一堂に会して順位を競います。
　②この大会は第３９回埼玉県民総合スポーツ大会の一部として位置づけられ、上位３チームに対し埼玉県知事の表彰状が県から交付され、また、埼玉県レクリエーション協会から５万円の補助金が支給されます。
参加チーム：さいたま市６チーム、横瀬町３チーム、川口市２チーム、上尾市３チーム、所沢市４チーム、の合計１８チームが参加しました。受付時にチーム名札を配布し全員着用しました。
開会式：　チーム番号順に整列して、新井田弘実行委員長の開会宣言で始まり、山田会長から、今大会の会場は初めて県立武道館の主道場が利用できたこと、この大会は埼玉県民スポーツ大会の一環であること、埼玉県レクリエーション協会の後援を頂いたことの報告があり、上尾支部の賞品準備や会場設営に対し謝意が表明されました。
　前回優勝のさいたまチームから優勝カップが返還され、さいたまＳチームキャプテン鷹巣選手から力強い選手宣誓がありました。
　続いて新井田実行委員長から競技方法について説明があり、今大会のルールは、全日本ディスコン交流協議会発行の公式ルールブックのルールを採用し、キャプテン及び２番３番の投盤順は本大会中変更できないことや、試合進行への協力要請がありました。
試　合：磯副会長音頭による準備体操の後、各コートに分かれて試投ののち、試合を行いました。試合開始と終了は、フォイッスルに従い全コート一斉としました。
　各コートで熱戦が繰り広げられ、ナイス投球やファインプレーに対して歓声と拍手

が起こり、チーム同士や地域間の交流も大いに深められました。



大会会場の武道館主道場は、広々としたフローリングがとても綺麗で、ディスコンコートが１２面取れ、６面では勿体ない位でした。２階観客席もゆったりと広く、来年この会場が取れたら、参加チームをもっともっと増やしたいと感じました。

表彰式：新井田実行委員長から成績発表があり、山田会長から賞品等が授与されました。

優　勝　　所沢さわやかチーム（４勝・勝点１２、得点１９、失点８）

優勝チームには、優勝カップ・個人別県知事賞状・賞品が授与されまた。



準優勝　　横瀬Ａチーム（３勝１敗・勝点９、得点２１、失点９）



第３位　　さいたまＳチーム（３勝１敗・勝点９、得点２０、失点９）



賞品授与：上位３チームの他に５位、７位、１０位、１５位の飛び賞とブービー賞が授与され、また、全員に参加賞が渡されました。
なお、各チームに試合結果集計表が配布されました。

閉会宣言：町田副会長から閉会の挨拶があり、集合写真を撮り散会しました。



（山田　武記）